

いわかげ

— No. 103 — 2004, 8, 26

広島大学文学研究科考古学研究室・
帝釈峡遺跡群発掘調査室

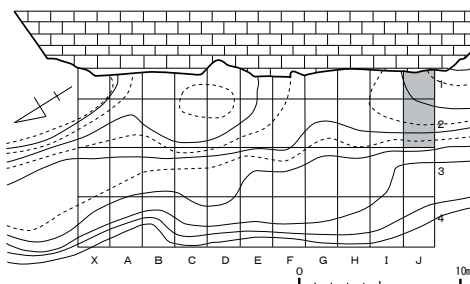


帝釈峡遺跡群発掘調査2期（8月19日～25日）の調査成果

久代東山岩陰遺跡

今年度の調査目標は、縄文時代における生活空間の範囲の南限を確かめることです。そのため、遺跡の中で最も南に設定した調査区を掘り下げています。この調査区から縄文時代の生活跡や遺物を確認できなければ、ここを遺跡の南限だと確定できます。

今期の調査では縄文時代の土器が2点、石の鏃（やじり）が2点出土した以外に、人が生活した証拠となる遺物、遺構はほとんど確認することができず、遺跡の南限を確かめるという今年度の目標を達成することができると思われました。ところが、今期の調査終了寸前に縄文時代早期（約10000年前～6000年前）の層から、河原石がまとまって見つかりました。この河原石のまとまりが自然にできたものか遺構かを、今期の調査では確認することができなかったもので、8月27日から始まる3期の調査では、この河原石群が、遺



久代東山岩陰遺跡の調査区配置（網掛け部分は本年度の調査区）（左図）
油木町の子供達による久代東山岩陰遺跡での発掘体験の様子（上図2枚）

構なのか自然にできたものなのかを確かめることから作業を始める予定です。

8月24日には油木町の小学生10名が東山遺跡に発掘体験に来ました（前頁の右図2枚）。土器や鍬（やじり）を見つけた子もいて、非常に充実した一日になったと思われます。今日の体験を通して、自分の住んでいる地域に多くの遺跡があることに関心を持ち、この帝釈峡の特色ある環境がいかに素晴らしいものであるかを考えてもらいたいと思います。また、そうすることで久代東山岩陰遺跡をはじめ、帝釈峡地域で見つかっている多くの遺跡が地域の方々の協力の下に将来にわたって大切に保存されていくことを願っています。

（荒平 悠・唐木雄）

コラム 野部川の清掃

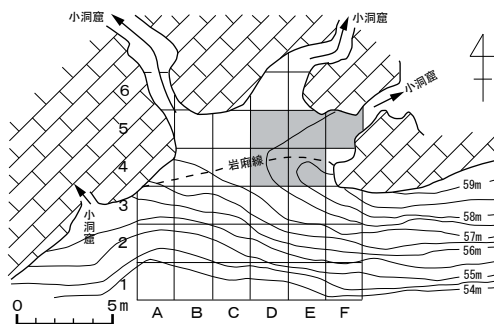
僕達が発掘を行っている久代東山岩陰遺跡の前には野部川と呼ばれる川が流れており、遺跡に向かう際には必ずその川を渡らなければなりません。また発掘で出た土を洗うのにもその川の水を使用しており、まさに僕達と野部川は一蓮托生と言っても過言ではないわけです。そこで8月22日に日頃の御恩に感謝して野部川の清掃を行いました。出土品は空き缶に始まりフライパン、自転車のかごに炊飯ジャー等、意外と多くのものを拾うことができ、川の自然保護に役買えたのではないかと思います。最近、川で魚を見かけることも多くなったこともあり、川に住む小さな命たちのためにも、川で泳ぐ僕らのためにもこれからも僕達は野部川の清掃を続けていこうと思います。

（荒平悠）

帝釈大風呂洞窟遺跡

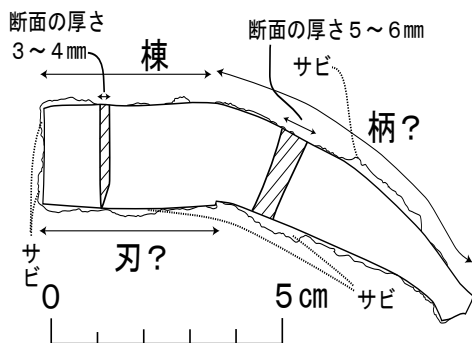
1期に引き続き、2期の調査が8月18日からスタートしました。今期も天候には恵まれませんでしたが、1期より人数も増えたこともあって、調査は何とか順調に進んでいます。

前回触れました、灰のたまった焼けた凹み、炉の跡であることが分かりました。それは、F-5区という遺跡の隅のほうにあります。この位置は洞窟の天井も低く、移動には必ずしもよい場所ではないのですが、炉の底の焼けた土が厚いことから、何度も同じ

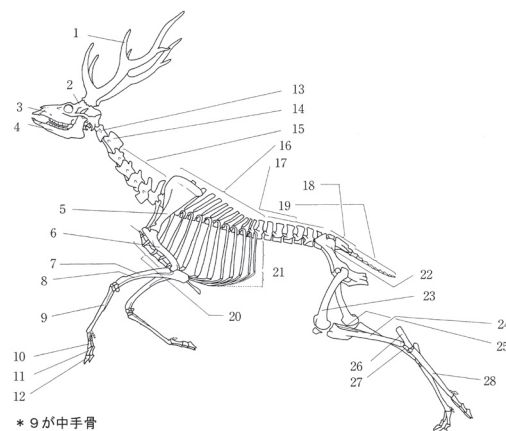


帝釈大風呂洞窟遺跡の調査区配置（網掛け部が今年度の調査区）（左図）

E-5区とF-5区の遺物の出土状況（右図、白矢印先が遺物の出土位置です）



帝釈大風呂洞窟遺跡出土の鉄器



シカの骨格（図中番号9が中手骨、『埋蔵文化財ニュース』113より）

場所で火を焚いていたようです。

他は、奥側のD-5区、E-5区から遺物が多く出土しています。D-5区からは、主に動物の骨が出ています。炉跡とほぼ同じ高さの、この区の南側からは、全長20cmほどの鹿の中手骨（右上図参照）と、礫が集中したものが出土しています。礫群の方は遺構（生活の跡）ではないかもしれませんが、当時からその場にあったことは間違いありません。それが何らかの生活に関係するものなのか、偶然集まったものなのかは、検討が必要です。

E-5区からは、土器片が多数出土しています。また、1期の間に鉄製品も出土しています（左上図参照）。これは、おそらく山仕事用の道具であると思われますが、今の所、私達では用途を明らかにできていません。心あたりの方は是非ご一報ください。また、北側からは、炭や灰、焼土などが確認されており、もしかすると炉跡が出てくるかもしれません。D-4区も、岩廂線の内側である北側から、土器片など少量ですが出土しています。

これまで分かっていたように、遺跡の東側ではやはり中世の古い段階では奥の方まで生活の場所として使われていたようですが、次第に奥は使われなくなっていった様子が窺われます。ただし、天井が低いF-5区は、そこには人はあまり入らず、炉だけが暖をとるためや照明の役割として作られていたのかもしれません。まだ様々な可能性が考えられます。E-5区からも炉と見られるものが検出されており、D-5区からも昨年度に炉跡が検出されていることから、一カ所、決まった場所で火を焚いていたわけではないかもしれません。

今年度の発掘では、中世及び縄文時代の洞窟の利用状況を明らかにすることが目標です。その目標に向けて、出来るだけ早く縄文時代の層に到達し、利用状況を明らかにしていきたいです。また、中世の利用状況と比較しながら発掘していきたいと思います。

（石神育美 大藁幸輝 下元優）

コラム：食事当番の一日

帝釈峡遺跡群発掘調査室のメンバー全員の生命線とも言えるのが、その日の食事当番（略して食当）です。メンバーが毎日交代で食当を務めます。食当は午前6時に起床し、すぐ朝食と昼の弁当の準備を行います。現場に向かうメンバーを見送ったあとは朝食の後片付けと掃除、洗濯です。食事にしろ、洗濯にしろ、20人以上の量を行いますから、食事の分量を考えるのも難しいですし、洗濯も3～4回に分けて行います。これをこなしていると、あっという間にお昼です。お昼は、食当によってマチマチです。きちんと作る者もいれば、カップ麺で済ます者もいます。午後からは前日出土した遺物の整理を行います。出土数の如何によっては、休憩の時間が少なくなってしまうです。だから現場で作業しているときは何か遺物が出てほしいと思うものなのですが、次の日が食当だと、そんなに多くは出てほしくないなと思ってしまいます。そしてその日のメニューによって違いますが大体午後4時頃から夕飯の準備に取り掛かります。午後6時半の夕食に間に合うように、そして、一日の締めくくりとして相應しいものを作ろうと食当は頑張ります。発掘の後は皆空腹ですのでかなりの量を平らげます。そして、嵐の去った後、昼の弁当&夕食という大量の後片付けを行ってその務めを終えるのです。

（大藪幸輝）

「動物骨からみた帝釈峡遺跡群の意義」 愛知教育大学 河村先生のお話から

河村先生は第四紀（Quaternary）の古生物が研究対象です。第四紀とは今から約180万年前から現在に至るまでの間の地質学的時間を言います。この第四紀は①寒冷期、②環境の激変、③人類が進化・発展した点が特徴です。先生はこの第四紀の中でも特に哺乳類を対象として研究していらっしゃいます。哺乳類は他の種類に比べて変化の度合いが大きく、年代的により詳細な位置づけが可能だからです。日本の場合、おもにゾウの化石を基準におおよその年代を知ることができます。今から1万～40万年前にナウマンゾウ、40～60万年前にトウヨウゾウ、60～120万年前に古い型のマンモス、120万年前～250万年前にアケボノゾウ、250～500万年前にシンシュウゾウという種類のゾウが住んでいたことが化石から分かっています。これらはそれぞれ、寒冷な気候の時に大陸と陸続きになった際に移動して来たと考えられています。約40万年前にナウマンゾウが大陸から移動して来た時期以降は、大陸と陸続きになった時期は無いようで、約40万の間それほど動物の種類は変化していないようです。しかし、現在、ご存知のように、日本では動物園にしかゾウはいません。最も新しいゾウの化石でも今から約1万8000年前のものだそうです。また、ゾウと同様に、豹なども日本にいたそうですが、現在はゾウと同



講演中の河村先生

様に日本にはいません。このようなゾウや豹のような絶滅動物は、今から約1万5000～1万2000年前までは日本でも見られましたが、この時期を境に絶滅してしまいました。このような哺乳動物の絶滅現象は日本だけでなく、世界中で起こっており、特に南北アメリカ大陸やオーストラリア大陸では多くの種類の動物が絶滅してしまったそうです。一方、アフリカ大陸ではこのような動物の絶滅は目立っていません。これは一説によると、人が動物を殺し過ぎた（overkill）ためであると考えられています。アメリカ大陸では人の出現と絶滅の時期が重なっているからです。アフリカ大陸で絶滅種が少ないのは、それ以前から人と共存していたためであるとされています。

さて、前置きが長くなりましたが、帝釈峡遺跡群の中にはこのような動物の絶滅期と時期的に重なる遺跡が知られています。それは帝釈観音堂洞窟遺跡や、現在発掘中の帝釈大風呂洞窟遺跡です。観音堂洞窟遺跡でもナウマンゾウの化石や絶滅種のニホンムカカシジカの化石が見つかっていますし、大風呂洞窟遺跡でも絶滅種が確認されています。ところで、帝釈峡遺跡群では今から約1万2000年前以降、つまり縄文時代以降は人の生活した痕跡が見つっていますが、それ以前には人が生活していた確実な痕跡は見つかっていません。動物の絶滅には、気候の温暖化など他の原因も存在する可能性もあり、これらの原因を究明する上で、数万年前から動物の骨が遺存する土層が堆積していることが分かっているこの帝釈峡遺跡群は、絶好のフィールドであるといえます。観音堂遺跡と大風呂洞窟遺跡以外にも、そのような遺跡がある可能性は大きいと思われ、より多くの遺跡で詳細な動物骨のデータが得られれば、絶滅の理由が何であったのか、より詳細に検討することができます。また、考古学的な立場からは旧石器時代の遺跡が見つかる可能性もあり、動物という自然環境だけでなく、自然（＝動物）と人との関わりの変化を知ることができる点も帝釈峡遺跡群の魅力の一つであるといえます。このように帝釈峡遺跡群の今後の調査には、考古学だけでなく、他の分野からも大きな期待がかかっているということを私たちも改めて知りました。

コラム 「蜂の巣」

1期の終わりに上帝釈の宿舎の植え込みにスズメハチが巣をかけているのがわかりました。幸い、調査期間中に誰も刺されることもなく、無事に過ごすことができました。しかし、そのままにしておくのは危険ということで、東城町教育委員会にお願いして、お盆休みに帝釈未渡の福永芳名さんに駆除していただきました。ありがとうございます。2期には安心して過ごすことができました。

ちなみに、帝釈観音堂洞窟遺跡付近の調査室にも大きなスズメハチの巣があります。1期にはハチの姿が見えなかったのですが、2期には巣に出入りしている姿が目撃されていますが、これはあまり危ない場所にあるわけではないので、現在はそのままにしています。どこまで大きくなるのか分かりませんが、ついつい見入ってしまう程に大きく立派です（＾＾）

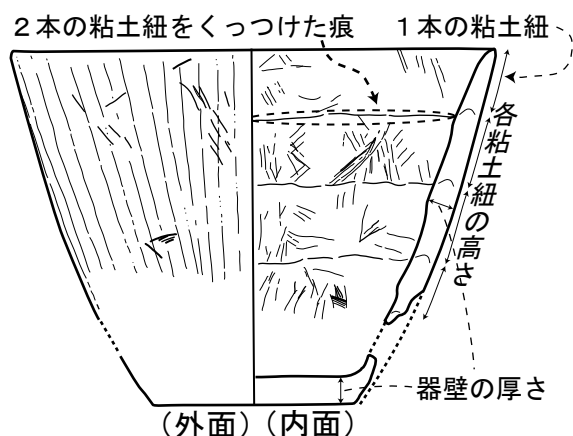
この他に、観音堂の調査室付近の電柱の穴を利用してミツバチが巣を作っています。他のハチ

が近づくと、密集したミツバチ達が体を振るわせて威嚇するミツバチダンス（という通称だった気がします）も見られます。

帝釈峠遺跡群の遺物あれこれ2

帝釈馬渡岩陰遺跡第4層出土の無文土器（左図）

1963年の帝釈馬渡岩陰遺跡第2次調査の際に発見されました。見つかった際は約50もの破片に分かれていました。最大径は約21cm、高さ約16cmのバケツのような形をした土器です。底の周辺は、火にかけて使用したためか、かなり破損が激しいようです。また、内面は粘土帯を輪状にして積み上げた痕跡が見られるほか、外面には整形した際の幅6～9mmの縦方向の細い筋が見られます。この土器は放射性炭素同位体を用いた年代測定法によって、今から約12000年（縄文時代の初め頃）に作られたものであることがわかっています。これは日本の中でも最も古い土器の1つとして挙げることができます。



馬渡遺跡出土の無文土器

現在は東城町の歴史博物館「時悠館」に展示されています。

すでにお気づきになられた方もいらっしゃると思いますが、前号から表題の遺物の図が毎回変わっています。これはこの帝釈峠遺跡群で出土した遺物をモデルに選んでいます。そしてその遺物の解説をここで行っています。あまり知られていないような遺物もここでとりあげて、皆様にご紹介して行きたいと思っています。

人物往来

油木町教育委員会教育課長補佐 横山邦正さん、油木公民館長 藤井優晴さん、他小学生10名・引率者2名（8月23日 久代東山岩陰遺跡の発掘体験）

愛知教育大学 河村善也教授（8月22日～23日）

大阪市立大学大学院生 利渉幾多郎さん（D3生）（8月19日～）

京都大学人間・環境学研究科大学院生 石丸恵利子さん（D3生）（8月19日～）、オマル・ルブナさん（研究生）（8月22日～）

愛知教育大学学部生 前川奈緒さん（4年生）（8月19日～23日）

広島大学文学研究科学部生 永田千織さん（4年生）（8月19日～）、須崎瀬里奈さん（4年生）（8月19日～23日）

参加者名簿（2期 8月19日～25日）

広島大学大学院文学研究科 教授 古瀬清秀
〃 助教授 竹広文明
〃 助教授 野島永
〃 大学院生 加藤徹(D 2 生)、上倉郁子・工藤心平(以上 M 1 生)
広島大学文学部学部生 荒平悠・石神育美・大藺幸輝・下元優・唐木雄(以上 3 年生)、
伊藤裕介・江副陽祐・白根明樹・津田真琴・寺西宏展・中村匡成・山手貴生(以上 2 年生)
奈良大学学部生 原田博志(3 年生)

陣中見舞いのお礼

神石町 秋山好古さん ビール 1 箱
神石町 長谷川等さん ジュース 1 箱
弥生食堂さん 野菜
神石町文化財保護委員会代表 伊藤 尹さん 梅干・ジュース 1 箱・お菓子
油木町教育委員会 横山さん、油木公民館長 藤井さん 野菜・ビール 1 箱
呉市 桑山実さん ビール 1 箱
大阪市立大学 利渉さん、愛知教育大学 前川さん ビール 1 箱
広島大学 西別府元日先生 ビール 1 箱
広島大学 玉井さんご家族 お菓子
広島大学 大麻ゆかりさん お菓子

ありがとうございました。

本年度は残り 8 月 27 日～9 月 3 日までの間、東山・大風呂の両遺跡で発掘調査を行う予定です。お気軽に遺跡まで見学に来てください。遺跡の見学には、山登りおよび川を渡れる服装でおこし下さい。

2 期には、いつもお世話になっている神石町の鈴木クリニックの鈴木先生夫妻が遺跡および上帝釈の調査室を訪問されました。調査中には怪我や病気になることが怖いのですが、鈴木クリニックのおかげで私達も安心して調査することができます。

末尾となりましたが、前号の第 102 号いわかげの 5 頁、人物往来の文章中、東城町教育委員会とすべきところを東条町と誤って記載していました。ここに訂正するとともにお詫び申し上げます。

(編集 加藤徹)

